

仕事と自己啓発の月刊誌「OLマニュアル」

OLmanual

<http://www.kens-p.co.jp>

特別企画

「転職」で成功する人失敗する人
一はっきり言ってここが違う!!



SEPTEMBER, 2012
Vol.24 No.283

09

私はロータリークラブという国際奉仕団体に所属しています。そのクラブでは、昨年の震災後から牡鹿半島の小さな村を支援しています。この村は人口百人ほどの漁村で、ホヤの養殖で生計を立てていましたが、ホヤは全滅し、復帰には三年かかるそうです。

東京にいる私たちが出来ることはしているのですが、過日メンバーでこの村を訪ねました。家も人も失った方々にどんな言葉をかけるのか、どんな顔をしてお会いすればよいのか、そんな戸惑いを感じながら伺いました。ところが出迎えてくださった方々は笑顔とエネルギーにあふれていて、逆にこちらが励まされてしまいました。

すごい！何かを失いたくないために頑張っている自分がちっぽけで、なんだか恥ずかしくなりました。

今の世の中はすべて「作り込みすぎ」で、ルールやマナーを決めないと人間関係がうまくいかない。マニュアルや指示がないと安心して行動ができない。いつ頃から日本人はそんな風になってしまっ

★ 巻頭エッセイ

相部博子の

マナーは人のためならず

連載

No.3

生きる元気は
ゴール設定から



相部博子 人材育成コンサルタント/ビーフォーシー代表取締役

私立鴎友学園女子高等学校卒業後、NewZealandクライストチャーチランギルスクールへ留学。その後、NewZealandミートプロデューサーズポート東京オフィス勤務。以降、日本航空株式会社、日本語講師、クリナーの輸入代理店、ニューヨークの日本語放送東京支社、日本で初の禁煙ラボの経営、及びカウンセラーなど、様々な業種と業務を経験し、平成元年6月に株式会社ビーフォーシーを設立。http://www.bforc.jp/

たのでしようか。原点復帰、人として生きることを誰かに委ねるのではなく、自分で考えて行動する。そんな当たり前のことをどこかに置いてきてしまった気がします

その村には「絶対に復興させる」という強い信念が存在しています。つまりこれこそが明確な目標設定なのです。私たちが東京でウダウダしている間に、彼らは驚くようなスピードで再生を遂げるに違いありません。皆に平等に与えられた時間、その時間をどのように使うかで結果に大きな違いが生まれるでしょう。

三年後、こうした被災地が確実に再生される時、私たち自身も目に見える進歩をしたいと思いませんか。ただ時に流されるのではなく、「どうなりたい」「何をしよう」と日々の小さなことから数年単位まで、自分のゴールを設定することが、毎日を楽しむ生きることにもつながります。

あの笑顔とエネルギーは、「私たちがつて負けてはいられない」と勇気を分けられました。